

Vol.169

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

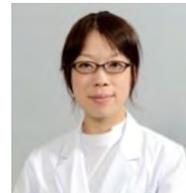
発行責任者 病院長 佐々木 順子

先生
おたずねします

『大腸がんにおける外科手術』

外科 医長

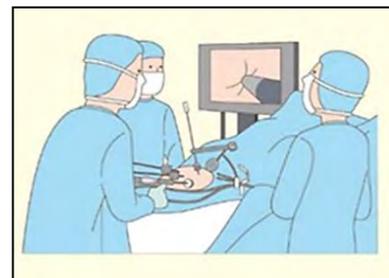
吉田 優子



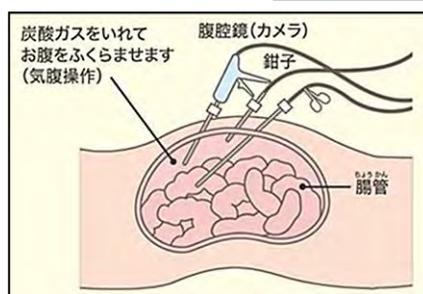
日本における大腸がん罹患患者数は高齢者の増加や、食生活の欧米化等の原因により年々増加傾向にあります。大腸がんは、早期発見・早期治療が行われれば、十分に予後の見込める癌腫の1つであり、リンパ節転移の可能性がない早期がんに対しては内視鏡的治療が、それ以外に対してはリンパ節廓清を伴う外科的な大腸切除術が行われています。

1993年に大腸がんに対して日本で初めて腹腔鏡下大腸切除術が行われ、2002年に同手術の保険収載がなされて以降、近年、大腸がんに対する腹腔鏡下手術は広く行われるようになりました。

腹腔鏡下手術は、腹部に5-10mm程度の傷を数か所につけ、内視鏡や鉗子等の様々な機器を挿入して手術を行う方法です。これまで行われていた開腹手術と比較し、腹腔鏡下手術は拡大視効果によるきめ細かい手術が可能となる一方、高度な技術を必要とする手術方法です。腹腔鏡下手術の利点としては、小さな術創による整容性の向上や術後疼痛の軽減、それに伴い手術翌日からの早期離床が可能



であり、腸蠕動の回復が早いことから術後3日目には食事摂取開始が可能となっています。また、がん治療で最も重要である長期予後に関しても、開腹手術とほぼ同等であることが示されており、現在の『大腸癌治療ガイドライン医師用2016年版』ではがんの進行度や部位にかかわらず、各施設の技術レベルを考慮したうえで、根治性を担保しつつ安全に手術を行うよう勧められています。

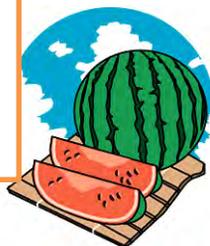


当院では、大腸がんに対する腹腔鏡下手術を積極的に取り入れており、術後7-10日目での退院、および早期の社会復帰を目標とし、安全確実な治療をすすめています。また、遠隔転移を伴う進行大腸がんに対しては、抗がん剤治療と手術によるコンビネーション療法を可能な限り取り入れ予後の改善につとめております。

問い合わせ先 外科受付

外線 078-672-2628

内線 22628



歯科口腔外科 杉山 誠

1. 専門分野
口腔外科
2. 趣味・特技
アウトドア、ダイビング
3. これからの抱負

この度、三菱神戸病院で働くことになりました杉山誠です。三菱神戸病院で働くことができ、大変光栄に思っております。初心を忘れずに、日々努力する所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。

